



愛知工業大学 学校  
愛知工業大学情報電子専門学校  
愛知工業大学 名電高校  
愛知工業大学 附属中学校

目次

理事長講演要旨	2
理事長ら訪中	3
高校総体で優勝	4
世界の頭脳語る	5
学園トピックス	6
設置校で学校祭	7
防災訓練実施	8

発行所  
名古屋電気学園  
〒470-0392  
豊田市八草町八千草1247  
Tel. (0565) 48-8177

# 「夢を持ち続け、失敗恐れるな」と生徒激励 後藤淳理事長が中高一貫の海陽学園で講演



後藤淳理事長は九月三十日、学校法人・海陽学園（愛知県蒲郡市）で一期生の五年生に講演（写真上）しました。理事長は、ノーベル化学賞受賞者の話から第二次大戦下での青春時代の思い出、当時の若者の戦争に対する思い、名古屋電気学園と「ピンポン外交」、そして資源のない日本の進むべき道等を十分にわたり生徒に熱く語りかけ、「夢を持ち続け失敗を恐れるな」と激励しました。海陽学園理事長を務める豊田章一郎トヨタ自動車名誉会長も同席、講演の後、「（理事長の話に）感銘を受けました」と話していました。

中で、戦争の善し悪しは別

講演は著名人の特別講義等の会場に使われる中央棟一階の視聴覚室で行われました。理事長は五年生百六人を前にまず、豊田名誉会長の依頼に加え、今年夏に愛工大名電高校で話を聞いたノーベル賞受賞者の高校生への熱い思いに感激し、自身も「若い人を励ましたい」と講演を引き受けたエピソードを披露。



後藤淳理事長の話に聞き入る海陽学園生徒

に日本のため「何かをしなくては」と、旧制中学校を繰り上げ卒業し広島島の江田島にあった旧海軍兵学校に入ったことを語りました。そして、その話に合わせて幕末から明治にかけて坂本龍馬ら若者がどうして歴史の表舞台で活躍したのかを、テレビの大河ドラマの話を交えて分かりやすく解説。名古屋電気学園の概要を紹介する中で前理事長・学長の後藤鉦二先生が米中、



豊田名誉会長（奥右端）らと歓談する後藤淳理事長（手前右）

日中国交回復の道筋をつけた「ピンポン外交」の生みの親であることを、語って聞かせました。最後に、名古屋電気学園が一貫して取り組んでいる「物づくり」のための人材育成を取り上げ、以前、学会誌に寄稿した「「物づくり」こそ国の基本」のコピーを生徒に配布し、資源のない日本にとって「物づくり」がいかに重要かを力説。そのうえで生徒に「学園の評価は一期生が社会でいかに活躍するかにかかっています。皆さんは夢を持ち続け、頑張ってください」と激励し、締めくくりました。生徒らは大きな拍手を送り、感謝を表していました。豊田名誉会長、東京大名誉教授の中島尚正校長ら同席し、話に聞き入っていました。

講演の後、後藤淳理事長と後藤泰之学長は豊田名誉会長、中島校長ら海陽学園幹部らと理事長室で和やかに歓談。引き続き、豊田名誉会長らの案内で教育棟、全生徒が一度に食事出来る食堂棟等を見学。広い構内に各棟が整然と配置された恵まれた教育環境に感心していました。



豊田名誉会長（右端）の案内で海陽学園内を見学する後藤淳理事長（右から2人目）

学校法人・海陽学園とは



二〇〇六年（平成十八年）四月に、英国のパブリックスクールをモデルにした全寮制の男子校として開校

校写真。

（後藤淳理事長の講演要旨は二面に掲載）

クロトー氏に刺激され

四月に豊田章一郎名誉会長に...

クロトーさんは自分の若いころ...



熱心に聴く後藤淳理事長の講演

忘れられない年

皆さんは各地から学園に来て...

昭和十九年は戦争(第二次世界...

後藤淳理事長の海陽学園一期生講演要旨

私が青年になる時の一番の思い出...

幕末、明治の若者

今、テレビの大河ドラマで「龍...

は「大政奉還」を待つて命を絶た...

なぜそうやってきたか、と言う...

一期生講演要旨

好古、真之兄弟(ともに日露戦争...

愛媛県出身の合田盛文さんとい...

そして(第二次大戦に)負けた...

教育は力

そして(第二次大戦に)負けた...

八年前に電気の学会誌に書いた...

ピンポン外交生みの親

今、中国との問題がよく取り上...

物づくりこそ国の基本

「物づくり」ですが、日本はど...

ものをつくるには、現場で汗を...

頑張り一期生

海陽学園が開学して五年目で、...

に授業等をやり、一期生がいかに...





貢献賞の楯を前に後藤淳理事長(手前)と訪中団員

### 後藤淳理事長に日中友好協会から「日中友好貢献賞」の授与 後藤泰之学長、愛工大・東南大姉妹校提携記念式典に参列



後藤淳理事長、後藤泰之学長は九月十日にかけ、訪中団を率いて中国で開催された愛工大・東南大姉妹校提携三十周年記念式典、日中友好協会創立六十周年記念式典等に出席、東南大等の交流を深めました。

後藤淳理事長は十月十五日、北京市で開催された日中友好協会創立60周年記念「10・15大集会」式典会場で「日中友好貢献賞」の表彰を受けました。  
式典は、人民大会堂(日本の国会に相当)Ⅱ写真㉔上Ⅱで行われ、日本から参加した各都道府県友好協会代表団ら約千五百人が出席。表彰者は、理事長ら国内の合わせて六十人で、長年にわたり日中友好に努めたとして「日中友好

貢献賞」が贈られました。受賞者は壇上で、一人ずつ宋健・中日友好協会会長から記念の楯などが手渡されました。理事長も壇上に入り、報道陣らのフラッシュを浴びながら、宋会長と握手を交わしました。

会場には日本の丹羽宇一郎大使も駆けつけ、祝辞を述べました。理事長は、親交のある日中双方の友好協会幹部らと和やかに歓談、旧交を温めました。

#### 東南大学を表敬訪問

理事長は十六日、南京へ向かい、市街地にある東南大・四牌楼キャンパス本部に胡凌雲書記、易紅学長らを表敬訪問。東南大幹部らがギリシヤ建築を思わせる表玄関Ⅱ写真㉔下Ⅱで、理事長ら学園訪中団一行を出迎えた後、本部内で歓談。胡書記、易学長が「両大の友好促進に貢献された理事長先生の功績は、忘れません」と挨拶、理事長も三十年前の両大姉妹校提携の経緯に触れながら「この場に來て構内にある古い「六朝の松」など、その時、その時のことが次々に思い出されてきます。また、私どもと係わりの深い(米中、日中国交回復の道筋をつけた)「ピンポン外交」の契機となった(名古屋市での)第31回世界卓球選手権大会開催から数え来年で四十年になり、記念イベント等の話があります」と話

しました。東南大から「日本で有力、かつ素晴らしい大学との交流を誇りに思っています」との言葉も出るなど、終始、和やかな雰囲気にも包まれていました。同日夜は江蘇省人民対外友好協会会長主催の歓迎会



が宿泊先のホテル内で開かれ、学園側から後藤淳理事長、三輪博美事務局長ら、友好協会側から呉錫軍会長らが出席しました。



東南大本部前で記念写真に収まる後藤淳理事長ら学園訪中団、東南大幹部の皆さん

同日夜は江蘇省人民対外友好協会会長主催の歓迎会



が宿泊先のホテル内で開かれ、学園側から後藤淳理事長、三輪博美事務局長ら、友好協会側から呉錫軍会長らが出席しました。

理事長、呉会長Ⅱ写真㉔上Ⅱは挨拶の中で、「これからのより良い日中友好のため、一番大事なベースである民間の中日友好を推し進めていきましょう」と力強く挨拶。この後、食事をはさみながら歓談、交流を深めました。

#### 東南大で両大姉妹校提携30周年記念式典

後藤泰之・愛工大学長を団長とする本学代表团、学生訪問団は九月三日、本年度、三十年を迎えた姉妹校提携を記念して東南大・四牌楼キャンパスで行われた記念式典に参加しました。式典には本学の教職員、学生合わせ三十二人、東南大から二百四十人の教職員、学生が参加し、厳粛かつ盛大に行われました。



姉妹校提携30周年記念式典で握手を交わす後藤泰之学長㉔と易学長

易紅東南大学長が、愛工大で学んだ教員、学生が中国で今、優秀な人材として活躍しており、これは後藤鉀二元学長、後藤淳総長、後藤泰之学長の日中友好の貢献によるものと感謝の挨拶をしました。後藤泰之学長も、(両大の交流は)歴代の学長らの尽力の賜物と称え、今後も日中両国の社会、産業の第一線で活躍する優秀な人材を育成していきたい、と挨拶。両大の学生代表の挨拶の後、記念品の交換で式典を締めくくりました。  
同日夕には「愛工大日本ビジネスコースと東南大との学生受入に関する覚書」の調印式に続き、易学長、後藤泰之学長らが出席し記念祝賀会が行われました。

# 日本一の座に―愛工大名電高フェンシング部男子 大学卓球部・男子が日本卓球リーグ1部昇格

愛工大名電高フェンシング部が七月〜八月まで沖縄県を中心に開催された「平成22年度全国高校総合体育大会」(インターハイ)の男子・学校対抗の部で見事、優勝し、十五年ぶり十度目の栄冠を手にしました。また、愛工大卓球部男子は六月に行われた「平成22年度前期日本卓球リーグ所沢大会」2部リーグで優勝、1部リーグに昇格しました。

## 愛工大名電高フェンシング部

フェンシング競技には高阪一世君(普通科三年)、守屋一教君(同)、佐藤創君(科学技術科三年)、永井寛也君(普通科二年)、



## インターハイで15年ぶり10度目の栄冠

竹之内元君(同)の五人が  
出場。

競技は金武町体育館を会場に行われ、四回戦で三島高(愛媛)を5-2で、続く準決勝で鳥羽高(三重)を5-2でそれぞれ下し決勝に進出。和歌山北高(和歌山)との決勝には高阪、守屋、佐藤の三選手で臨み5-4の僅差で破り、優勝に輝きました。

川嶋範夫部長(名電高教諭)、小西貴之監督(若水事務部事務職員)に引率された高阪君ら部員五人が八月三日、愛工大八草キャンパス内の学園本部に後藤淳理事長を訪ね、優勝報告を行いました。

優勝メダルを首にかけた部員らが、優勝旗、トロフィー等を理事長や同席の後藤泰之愛工大学長に披露しました。理事長は「十五年ぶりになるのか」と優勝旗につけられた過去の優勝時

後藤淳理事長(前列)、後藤泰之学長(後列左端)と記念写真に収まる部長、監督、部員

の本校名が書かれたリボンを手にも、感慨深げでした。また、選手には「よく頑張った。おめでとう」と声をかけ、優勝を祝福していました。

優勝祝賀会は十月三十日に名古屋市内のホテルで開かれ、学園、高校、OB関係者約百六十人が出席。後藤淳理事長が部長、監督、部員を学園表彰し、健闘を称えました。

## 愛工大卓球部

卓球部男子は六月十六日から二十日まで、埼玉県所沢市民体育館で行われた平成22年度前期日本卓球リーグ所沢大会男子2部リーグで優勝、1部リーグに昇格しました。大会を主催する日本卓球リーグ実業団連盟が平成十九年度から大学・クラブも参加できるオープン化としたことを受けて今

回、出場。初出場ながら見事2部リーグで優勝し、1部最下位チームと自動的に入れ替わり、1部リーグ昇格を果たしました。

同昇格で十月から始まったリーグ後期大会ホームマッチが十月二十六日、本学八草キャンパス内の小体育館で強豪、明治大を迎えて行われました。



満員の観客の見守る中、相手を圧倒し最初に1勝を挙げた森本選手

両チームの選手紹介、卓球部部長の稲垣慎二副学長の歓迎挨拶に続き、シングルのダブルス合わせ五ゲームが行われました。最初のシングル戦で本学の森本耕平選手(経営学科一年)が3-0で相手を下しましたが、試合はフルセットまで持ち込まれ、結果、2-3で惜しくも負けました。

会場は、後藤泰之学長ら三百五十人を超す観客で埋まり、盛り上がりました。

## 愛工大ライフル射撃部

市原成正部長(経営学科三年)が五月、愛知県総合射撃場(豊田市)で行われた「第77回中部ライフル射撃選手権大会」(日本学生ライフル射撃連盟中部支部主催)の男子エアライフル立射で初優勝しました。

男子エアライフル立射は制限時間内に六十発を十針離れた的に撃ち、得点を競い合います。市原部長は、大会で667.7点の高得点を挙げて、優勝に輝きました。エアライフルは高校生の時から始めた、ということ。



男子エアライフル立射優勝の市原部長



# 生徒達に夢を持ち続ける大切さ訴える ノーベル化学賞受賞のH・クロトー教授

今回の講演は、クロトー

の大発見と言われ、クロトー

クロトー教授は英国生まれで、大学卒業後もカナダやアメリカの研究所で研究活動を続け、一九九六年、C60フララーレンの発見でノーベル化学賞を受賞しました。C60フラ



化学部門でノーベル賞を受賞したフロリダ州立大学のハロルド・クロトー教授Ⅱ写真①Ⅱが八月二十五日、愛知工業大学名電高校で生徒に講演し、ノーベル賞受賞につながった宇宙の星雲等の研究を中心に講演し、夢と希望を持って勉学に励んでほしいと語りかけました。感銘を受けた生徒は講演後も教授を取り囲み、交流の輪を広げるなど、クロトー教授の講演は高校生に大きな反響を呼びました。

教授と親交のある愛知工業大学客員教授の遠藤守信信州大学教授の力添えで、実現。南校舎地下一階大講義室で待ち受けていた生徒百人を前に、遠藤教授の通訳で「C60フララーレン発見までの道のりと科学技術の未来」と題し講演しました。博士はスーパーマンを夢見た少年時代など自分の生い立ちをユーモアを交えて紹介した後、「皆さんがエイリアンを見たいなら、鏡で



生徒にノーベル賞受賞に至る道のりを分かりやすく話すクロトー教授

自分の顔を見なさい。それがエイリアンですよ」とみんなを笑わせながら、人間の体を構成する元素は宇宙の誕生となったビッグバンで出来たと述べ、C60フララーレン発見に至る道のりを宇宙の誕生、生成を説明しながら解説しました。また、生徒にC60フララーレンのモデルキットをプレゼントし、製作。同席した後藤淳理事長や教師もモデルづくり挑戦、サッカーボールの形をしたC60フララーレンを体感しました。「なぜ化学者を目指したのですか」等の質問にも丁寧に答え、講演後も出席者全員や生徒との記念写真にも、気さくに応じていました。教授から励ましを受けて、「将来は同じような道を目指したい」と、感激する女子生徒もいて、熱い雰囲気にも包まれていました。

環境保全

## 俳優・柳生博氏、里山の恵みを語る 本学含む東部丘陵の大学集まり討論

### 環境7大学公開講座



俳優の柳生博氏が七月十一日、愛工大八草キャンパスの愛和会館で、名古屋市内で開催の「COP10（生物多様性条約第10回締約国会議）」に合わせ本学を含む県内七大学による「環境七大学集まり公開講座2010」で「花鳥風月の里山」と題して講演しましたⅡ写真②Ⅱ。

強調、生き物すべてが機嫌よく生きていけることの大切さを訴えました。

### リレー学際トーク

愛工大を含む名古屋東部丘陵十八大参加のリレー学際トーク（三回シリーズ）第二回「よみがえれ、東部丘陵の自然」が、十月三日に本学八草キャンパス内で開催されました。同プロジェクトは大学のキャンパス内などの自然保全・再生等を通し、名古屋東部丘陵地域特有の生態系の復元を目指します。蔵治光一郎東京大演習林長の講演「矢田川流域の自然の歴史、現在、未来」に続き、

本学の内田臣一工学部教授ら七人の講師が、



写真①。講師が、土壌動物やギブチヨウ等各研究分野の観点から講演しましたⅡ写真②Ⅱ。

柳生氏は荒廃した山林の回復、里山づくりに努め、コウノトリファンクラブ会長、日本野鳥の会会長として全国を飛び回っていると話しました。その中で、季節の移り変わりを花鳥風月で知るのには日本人ぐらいしかなく、また、稲の害虫、カメムシを例に自然界に生息するあらゆる生き物が人間の暮らしを守っていると

学 祭

◆最優秀ポスター賞 愛工大機械学科・戸伏壽昭教授

九月にポーランドで開催されたヨーロッパ材料研究学会2010年秋期大会のシンポジウム・ポスターセッションで最優秀ポスター賞を受賞しました。

同学会は九月にポーランドの首都・ワルシャワにあるワルシャワ工科大学で開催され、計十五のシンポジウムに欧米、アジア等から



戸伏教授と賞状

約千人の研究者らが参加。形状記憶合金、同ポリマーの形状記憶効果、変形特性等を研究している戸伏教授は、大会で三件の研究論文を発表。このうち、「新しい材料、被覆およびナノ工学」シンポジウムのポスターセッションで、加熱と冷却で正反対の変形特性を示すポリマーと合金を使い、二つを積層させた複合材料を加熱冷却させると、どのように変形するか検討した

研究成果をまとめた「三方向形状記憶複合材料アクチュエータ」について、実験や研究内容等を記した各種ポスターを展示、発表しました。同発表が優れていると評価され、シンポジウムごとに贈られる最優秀ポスター賞に選ばれました。

◆日本建築学会・設計競技最優秀賞他 愛工大大学工学研究科前期博士課程建設システム工学専攻一年秋野崇大君、同谷口桃子さん、建築学科研究生宮口晃君

秋野君ら三人による共同設計「樹脈の方舟（はこぶね）」が九月、富山大学で開催された「2010年度支部共通事業日本建築学会設計競技」で最高の最優秀



設計模型と中井准教授を囲み秋野君、谷口さん、宮口君（左から）

賞を受賞。琵琶湖を題材に自然と共生した建築設計の提案、プレゼンテーションが特に優れていたと認められました。

設計競技は日本建築学会正会員の大学生らを対象に毎年開催されており、今回は「大きな自然に呼応する建築」をテーマに全国から作品を募りました。秋野君ら三人は中井研究室（中井孝幸・建築学科准教授）に所属、研究室の前期課題となつている設計競技参加に共同設計で応募しました。

学園ピックアップ

秋野君らは、テーマに合わせ知名度も高い琵琶湖をまず「建設敷地」に選定。そのうえで、現地を見て回り水中から生えているアカメヤナギにヒントを得て、人や鳥、魚などが植物のもとで共生する——というコンセプトで設計。縦、横各八十センチの模型のほか、宮口君がイメージをつかめるようにと、四季とともに移り変わる様子をアニメーションに仕上げました。四百を超す応募作品から最優秀賞三点の一つに選ばれた三人は、「満足していま

す」と喜んでいました。中井研究室の学生は九月の「名古屋港ガーデンふ頭を考える学生提案競技」でも最高のグランプリを受賞と、「ダブル受賞」で注目を集めています。

ニューシンボル

◆新しい1号館開設



学園が愛工大開学五十年記念事業として建設。地上七階建て、延べ床面積約七千七百平方メートル。写真⑤。情報科学部を中心にメディア制作環境を整えたメディアラボやスタジオのほか講義室、メディア視聴覚室、キャリアアセンター、東海地区の大学で初出店となる喫茶「カフェ・ド・クリエ」等が入っており、学研や学生の交流、憩いの場となっております。

開設に先立ち九月十七日にオープニングセレモニーを行い、後藤淳理事長、後



テープカットする後藤淳理事長（右から2人目）後藤泰之学長（同3人目）

愛工大名誉教授

◆6氏に授与

藤泰之学長らがテープカットし、完成を祝いました。学園は六月、今年三月末で退職した元副学長、元工学部教授澤五郎氏、元基礎教育センター教授岡田静雄氏、同児嶋文寿氏、八月に元工学部教授大島貴充氏、元経営学部教授頼綱康兵氏と愛工大情報電子専門学校長で元経営学部教授白岩義夫氏に、それぞれ名誉教授の称号を授与しました。



（写真は、八月の名誉教授授与式）



青春おう歌く学校祭に湧く各設置校く

愛工大



大学祭50回目「大冒険」へ船出



「工科展」三連覇の渡辺研究室

今年、応募団体が多かったため、人力飛行機同好会、自動車研究室、内田研究室、レスキュープロジェクトなどの十二団体...

五十回目となる大学祭が十月九日、十日をメインに八草キヤンパスで開かれ、初日は雨の中、人気の「工科展」等が大勢の人たちが詰めかけ、盛況でした。

審査の結果、「不安定を安定に」を研究課題に倒れない二輪車の高度な技を披露した渡辺研究室が三年連続最優秀賞に輝きました。

審査の結果、「不安定を安定に」を研究課題に倒れない二輪車の高度な技を披露した渡辺研究室が三年連続最優秀賞に輝きました。

審査の結果、「不安定を安定に」を研究課題に倒れない二輪車の高度な技を披露した渡辺研究室が三年連続最優秀賞に輝きました。

名電高

Prologue ~未来への序章~



「テーマ」に合わせ九月二十二日、クラス企画のほかに有志企画、模擬店など生徒の智慧、アイデア、汗の結集したイベントが教室、喬徳館や光の庭、駐輪場を会場に繰り広げられました。

歓声の一際高かったのが喬徳館でのクラス企画のダンスで、この日に備え練習してきた成果を披露。趣向を凝らした衣装とスピード感、ユーモアたっぷりの踊りに見学の保護者も目を見張っていました。

各教室では、電子部品を使った手作りプラネタリウム、錯覚を利用したマジックハウスのから生徒の考えたお笑いの芝居まで盛りだくさんの展示や出し物があり、生徒が問題に挑戦したり、ゲームを満喫。光の庭の生徒会企画による「カラオケ大会」では、生徒、教員が次々にステージに上がり、熱唱してました。

その周りには牛どん、焼きそば、パフェ等の模擬店が並び、おいに誘われたお客さんで、どこも大にぎわいでした。

附属中

PEACE

高校と同じ九月二十二日、各教室、愛名館等で開かれました。愛名館では開会式に続き、中学一年生が「自分」などをテーマに、熱く語りました。

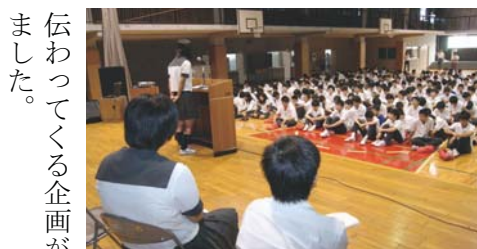
また、「新喜劇」と銘打った生徒のオリジナルのお芝居も披露され、笑い声に包まれていました。教室では、テーマの「ピース」に沿った作品などを展示。窓ガラスに平和をモチーフとしたステンドグラスを制作、また、おもちゃで広島原爆ドームを再現し、千羽鶴を会場にきた保護者らに折ってもらった。

また、「新喜劇」と銘打った生徒のオリジナルのお芝居も披露され、笑い声に包まれていました。教室では、テーマの「ピース」に沿った作品などを展示。窓ガラスに平和をモチーフとしたステンドグラスを制作、また、おもちゃで広島原爆ドームを再現し、千羽鶴を会場にきた保護者らに折ってもらった。

愛工大情報電子専門学校は球技大会



豊田市八幡町のスカイホール豊田で、学生約120人が参加して7月、開かれました。開会式で宗方茂樹学生会会長が、「今日一日、元気いっぱい楽しみましょう」と、挨拶。その後、クラスごとにチームを組んだ学生が、バレーボール、卓球など5種目で競い合いました。



意図が、熱意が、目立ちました。



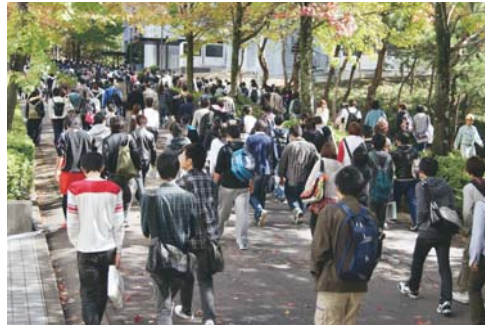
### 学園一丸となって防災訓練

—今年で5回目、ヘリも加わる—



大規模な地震発生に備えた防災訓練が十月二十六日、学園設置校の愛工大各キャンパスほか愛工大名電高校、愛工大附属中学校、愛工大情報電子専門学校で一斉に行われました。今年で五回目となる防災訓練には学生、生徒、教職員合わせて約五千五百人が参加しました。

グニチュード8・3で、八草キャンパス付近での予測震度は5弱との想定で行われました。



訓練は、昨年の防災訓練の検証、見直しも含め「紀伊半島沖で東海・東南海連動型地震が発生、規模はマ

大学の八草、本山、自由ヶ丘各キャンパスではサイレント「地震がきます」の放送で訓



の試みとして1号館で逃げ遅れた職員、学生を救助袋

練を開始。八草キャンパスでは、授業中の学生が、机の下にもぐり**写真⑥**、揺れが収まった後、避難場所になつてい



⑤ 写真 ⑥ 写真

### 「学園創立100周年記念募金」について

平成24年に学園創立100周年を迎えるにあたり、下記の通り記念の募金事業を開始しました。

#### 募金要項

募金目標額 10億円

次の100周年記念事業の費用の一部に充当させていただきます。

- ・名古屋電気学園100周年記念館（仮称）建設
  - ※ 若水キャンパスの南側敷地に、平成24年完成予定で建設
- ・大学八草キャンパスの整備・充実
- ・設置校の、情報機器等、教育・研究設備の整備・充実
- ・奨学金制度の充実

寄付金の種類

(1) 法人を対象とするもの	
一口の金額は特に定めておりません。	
(2) 個人を対象とするもの	
一般篤志家、同窓生、教職員等	1口1万円
在学生の父母	1口5千円

募金期間 平成25年8月31日まで

等の訓練を実施。今回、大学周辺の災害救助活動を考えたヘリコプターの離着陸訓練も陸上競技場であり、小池則満工学部准教授と研究室の学生による今後のヘリポート整備等に向けたヘリのダウンウオッシュ（吹き下ろし風）の調査も行われました。名工

大など県内の他大学も八草キャンパスで、避難や消火等の訓練を見学しました。本校のほか愛工大名電高校、愛工大附属中学校、愛工大情報電子専門学校でも同時に訓練を実施、学生、生徒、教職員らが沈着に行動し、無事、訓練を終えました。

### 編集後記

来年、「ピンポン外交」の発端となった世界卓球選手権大会・名古屋大会から数えて四十年目となります▼関係者の間で記念イベントが計画されていると聞いています▼今は経済発展も目覚ましい「経済大国」の中国も、当時は文化大革命の最中で、世界とくに大半の欧米、日本と国交はありませんでした▼名古屋大会に世界最強の中国チームを呼ぼうと、中国へ出向き出場を実現させ、ひいては米中、日中国交回復の道筋をつけた「ピンポン外交」の生みの親が前理事長の後藤鉦二先生です▼その後、中国は経済面で徐々に力をつけ、今では押しも押されぬ経済大国となりました▼しかし、今、日中両国は様々な問題を抱え、難しい局面に立たされています▼こうした時こそ、「ピンポン外交」の精神をもう一度考え直すことが必要だと思います▼記念イベント開催は後藤鉦二先生に思いをはせ、日中両国のより良き友好関係を深める、絶好の機会ではないでしょうか。(久)